

令和5年度第5回

登別市教育委員会会議録

日 時 令和5年8月31日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

第5回 教育委員会議事日程

1 日 時 令和5年8月31日（木）午後4時30分

2 場 所 登別市民会館 小会議室

3 議案

報告第3号 教委職員人事の内申に係る臨時代理について

4 情報提供

(1) 令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について

(2) 令和5年度全国学力・学習状況調査の分析結果について

(3) 新たな地域クラブ活動の開始について

(4) 市民スポーツ・健康フェスティバルについて

(5) アイヌ文化振興事業の実施について

4 出席者

(教育委員会4名)

教育長 安宅 錦也

委員 赤井 秀輝

委員 堅田 裕

委員 上村 正人

(事務局12名)

教育部長

森元 俊明 教育部参与

菅田 浩之

教育部次長

舘下 貴子 総務グループ総括主幹

近間 聡史

総務グループ建築主幹

南雲 宏明 学校教育グループ総括主幹

西川原 邦彦

学務主幹

秋葉 洋範 学校給食センター長

松田 大輔

社会教育グループ総括主幹

下沢 亮一 地域クラブ活動推進主幹

古村 建

文化・文化財主幹

菅野 修広 総務グループ主査

蓬田 匡俊

安宅教育長：ただいまの出席委員は4名であります。定足数に達しておりますので、これより令和5年度第5回教育委員会を開会いたします。

本日の議事につきましては、報告1件となっております。

最初に、報告第3号「教職員人事の内申に係る臨時代理について」を議題としますが、本件については、報告内容に個人情報が含まれますので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書き」により非公開とすることを発議しますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「意義なし」の声あり。)

安宅教育長：異議無いものと認めます。報告第3号については非公開とすることに決定されました。関係者以外、傍聴者も含めて退室と会場の閉鎖をお願いします。

[関係者以外退室、会場閉鎖]

[会場開鎖]

安宅教育長：以上で、本日の議事については全て終了しました。次に、事務局から情報提供をお願いします。

西川原学校教育グループ総括主幹：「(1) 令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択について」、情報提供いたします。

情報提供資料の1ページをご覧ください。

本市の小学校で令和6年度から使用する小学校用教科用図書については、苫小牧市を除く胆振管内の市町で構成する「第10採択地区教育委員会協議会」において、資料下段の参考にも記載した協議会規約第2条に基づき選定し、同条第2項の規定により、協議会を構成する教育委員会は、協議会が選定した教科用図書を採択しなければならないとされております。

この規約に基づき、令和6年度から使用する小学校教科用図書は、1ページに記載のとおり選定されましたので、このとおり採択することとなります。

2ページには、その選定理由を記載しております。

なお、使用する教科用図書につきましては、今年度まで使用している教科用図書と変更はございません。

説明は以上となります。

安宅教育長：只今、情報提供（１）について説明がありました。ご質問等ございませんか。

（「ありません」の声あり。）

安宅教育長：それでは、引き続き事務局から情報提供願います。

秋葉学校教育グループ学務主幹：「（２）令和５年度全国学力・学習状況調査の分析結果について」情報提供いたします。

別冊資料の１ページ、２ページをご覧ください。

登別市における調査結果の概要について示しています。

まず、１ページの教科に関する調査についてであります。今年度につきまして、例年実施している国語科、算数・数学科に加え、中学校英語科が、平成３１年度以来、４年ぶり２度目の実施となりました。

小学校では国語科においては全国の平均正答率と同等であり、全道の平均正答率をやや上回る結果となりましたが、算数科は全国平均と比較するとやや下回り、全道の平均正答率とほぼ同等の結果となりました。

中学校では、国語科、算数科、英語科のすべての教科において、全国と全道の平均正答率を下回る結果となりました。

２ページの質問紙調査では、この６つの観点で児童生徒の状況を捉えました。

詳細は後のページでお話いたします。

３ページ目をご覧ください。

今年度の平均正答率を全道・全国と比較したものです。

棒グラフの左が登別市、中央が全道、右が全国の平均正答率を表しています。

今回、中学校において、全国の平均正答率と比べると、国語科で７．８ポイント、数学科で１０ポイント、英語科で９．６ポイント下回っております。また、全国の平均正答数と比べますと、国語科で約１．１問、数学科で約１．４問、英語科で約１．６問の差がありました。

４ページをご覧ください。

全国と本市の結果を、学校種及び教科ごとに経年変化で比較したものを表しています。

薄い線が本市、濃い線が全国を表しています。

このことから、小学校では、国語がほぼ全国と同等の結果、算数科がやや下回る結果が続いています。

５ページをご覧ください。

中学校では、国語科がここ１０年ほど全国平均と同等でしたが、今年度は落ち込んでいます。

数学科が全国平均を下回る結果が続いています。

英語科は、2度目の調査のため、経年変化として比較することは難しいのですが、平成31年度よりも全国平均正答率の差が開いております。

また、算数・数学科の経年変化を見て分かるように、本市の小中学生が算数・数学を苦手としていることが分かります。

次に6ページから15ページまでは各教科における調査結果の概要となっております。

例えば、6ページの小学校国語科では、一番上の【話すこと・聞くこと】の領域で、学校ボランティアの人たちへのインタビューの様子が問題場面として示され、ボランティアの人たちがどのような思いでボランティアを続けているのかについて、わかったことをまとめて書く問題が出題されました。

この設問に対する本市の平均正答率は72.3%で、全国の平均正答率70.2%を上回っていました。

7ページは、小学校国語科に関する学力調査や児童質問紙の回答結果から、今後本市でどのような指導をすることが望ましいのかについて、示しました。

また、授業改善のための方策を領域ごとに示し、授業改善の視点を示しました。

8ページ以降、小学校算数科、中学校国語科、中学校数学科、中学校英語科においても同様に各教科の領域ごとの主な結果概要と授業改善の視点を示しております。

全般的な出題の特徴としましては、先の小学校国語科を例にとり、説明したとおり、児童生徒の実生活や今日的な話題と関連させた出題が多くありました。

学んだことを他の教科で生かす教科横断的な視点での授業改善や日常の生活やニュースで取り上げられるような話題と関連した視点での授業改善も必要となります。

続いて16ページから20ページまでは各教科の出題内容と正答率、無解答率になります。

これについては記載のとおりとなりますので、省略させていただきます。

21ページからは質問紙調査の概要です。

毎年質問項目が変わり、経年比較が難しいため、先ほどお話しした6つの視点で抽出しました。

まず、21、22ページの「自分について」です。

22ページの一番上の「人が困っているときは、進んで助ける」、上から2番目の「いじめは、どんな理由があってもいけない」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果となっています。

本市の小中学生の規範意識の高さが伺えます。

このことは、児童会生徒会の代表が集まり、いじめ問題や人とのかかわり等について考えを深める「鬼っ子フォーラム」や全ての学校が工夫を凝らして推進してい

る「みんなが通いたくなる学校づくり」の取組により、肯定的な回答率が高くなった要因の1つと考えられます。

23 ページをご覧ください。

「地域・人の関わり」では、一番下の「日本や住んでいる地域のことについて、外国人にもっと知ってもらいたい」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果となっていますが、上から2番目の「地域や社会をよくするために何かしたい」と回答した中学生の割合が、全国と比べて低い結果でした。

地域を担う人材の育成という観点から、地域・社会の理解を促す取組や教育活動を一層推進していく必要があると考えております。

24 ページをご覧ください。

「家庭生活について」では、上から2番目と3番目の「毎日、同じくらいの時刻に寝る」、「毎日、同じくらいに起きる」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果となっていますが、一番上の「朝食を毎日食べる」と回答した小中学生の割合が全国と比べて低い結果であることから、引き続き「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付くように働きかける必要があると考えております。

25 ページをご覧ください。

「家庭学習」については、上から2番目の「学校が休みの日、1日1時間以上家庭学習をする」と回答した小中学生の割合が全国と比べて高い一方、一番上の「平日、1日1時間以上家庭学習をしている」と回答した中学生の割合が全国と比べて低い結果でした。

本市の学力調査の結果を踏まえ、学習内容の定着を図るために、家庭学習習慣の確立も必要ですし、併せて、目的意識や課題意識をもち、要点を絞って取り組むなど、家庭学習の質を高めることが必要であると考えております。

26 ページをご覧ください。

「学校での学習について」ですが、どの質問項目に対しても小学生で肯定的な回答をした割合が全国と比べて高い結果でしたが、中学生は下回る結果となりました。このことから、全ての教育活動において、「主体的で対話的な深い学び」の視点での授業改善と校内研修を、より一層進めていく必要があると考えております。

27 ページをご覧ください。

「ICT機器の活用について」では、上から2番目の「ICT機器は学習に役立つ」と回答した小中学生の割合が、全国と比べて高い結果でありました。

役立つと感じているのは、本市や各学校においてICTの活用に係る研修を推進し、「効果的な活用」を模索しながら授業実践をしていることが要因と考えられます。

これらの分析結果や内容につきましては、先日実施した校長会議で説明し、本資料を参考に、課題解決や授業改善に向けた具体的な手立てを立て、実践していくよう市内小・中学校に伝えております。

また、市教育委員会としましては、各学校が、今回の全国学力・学習状況調査後の自校採点を実施し、その結果分析を受け、高い正答率につながったり、昨年度よりも成果があったりした取組について、集約し、好実践例をまとめました。

この資料については、7月に市教育委員会と市校長会議の共同開催により実施した教育課程課題検討委員会で、情報提供し、各学校の課題解決や授業改善に役立てるよう、説明しております。

今後は、学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進、その基盤となる学級づくり、生活リズム改善、家庭学習時間の確保、学習の質のさらなる向上などを軸に各学校と連携しながら、具体的な方策を実施してまいります。

長くなりましたが、私からは以上です。

安宅教育長：只今、情報提供（2）について説明がありました。ご質問等ございませんか。

（「ありません」の声あり。）

安宅教育長：それでは、引き続き事務局から情報提供願います。

古村社会教育グループ地域クラブ活動推進主幹：「（3）新たな地域クラブ活動の開始について」情報提供させていただきます。

まず、「1 概要」につきまして、新たな地域クラブは、近年、生徒数や教職員数の減少により、学校単位で部活動を維持することが難しくなって来ておりますので、将来にわたり、市立中学校の生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができるよう、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団において設置するもので、今般、新たな地域クラブの活動を開始することとなりました。

「2 新たな地域クラブの運営主体」は、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団、名称は「登別市地域クラブ」愛称は今後募集予定となっております。

活動形態は、学校部活動では、これまで各市立中学校の「部」として活動していましたが、登別市地域クラブでは、「チーム」として活動することとなります。

次に、「3 これまでの経緯」になりますが、令和4年12月27日、市内のスポーツ関係団体の代表者などで構成する「地域スポーツのあり方検討委員会」から本市及び本市教育委員会に対して提出された提言等に基づき、振興財団において、

新たな地域クラブの活動開始に向けて本年5月「地域クラブ事業委員会」が設置され、これまで、各中学校等との意見交換など準備が進められてきました。

学校部活動につきましては、特に団体競技においては学校単位でチームを編成することが年々難しくなっている中、今後、野球及びサッカーについては、特に学校部活動として継続することが難しくなることが予想されるため、この2つの競技について、新たな地域クラブの活動を開始することとなりました。

チーム活動の開始につきましては、令和5年度は、8月より、指導員の募集を開始し、9月より、休日における野球チーム及びサッカーチームの活動を開始いたします。

地域クラブは、所属する市立中学校に部活動が無い生徒も参加可能のため、現在通う中学校に野球部・サッカー部が無い生徒も参加が可能となります。

なお、平日につきましては、各学校の部活動または合同部活動として活動することとなります。

令和6年度は、4月より、平日及び休日における野球及びサッカーチームの活動を開始する予定となっております。

野球及びサッカー以外のスポーツ・文化芸術活動については、各学校ごとの部員数等を踏まえつつ引き続き各中学校の顧問や校長先生などと協議を行い、準備が整い次第、チーム活動を開始する予定となっております。

古村社会教育グループ地域クラブ活動推進主幹：「（4）市民スポーツ・健康フェスティバルについて」情報提供いたします。

本年は、10月1日（日）岡志別の森運動公園と市民プールを会場に実施します。

岡志別の森運動公園会場では、例年実施しております、ソフトボール、パークゴルフ、ソフトテニスの各大会、ノルディックウォーキング体験会を実施いたします。

また、登別市スポーツ推進委員会による「あそび広場」では、モルック体験会、スケートボード体験、忍者体験などが行われる予定となっております。

また、登別市民プールでは、水泳タイム計測のほか、宝探しや障害物競争など、プールを使った遊びや、登別市障がい者福祉関係団体連絡協議会による、ボッチャ、ゲーリング体験会が行われます。

以上となります。

安宅教育長：只今、情報提供（3）、（4）について説明がありました。ご質問等ございませんか。

（「ありません」の声あり。）

安宅教育長：それでは、引き続き事務局から情報提供願います。

菅野社会教育グループ文化・文化財主幹：「（５）アイヌ文化振興事業の実施について」２件情報提供します。

資料は別添のちらしになります。

今年は、本市出身で『アイヌ神謡集』の著者である知里幸恵さんの生誕 120 年、そして彼女が記した『アイヌ神謡集』の出版 100 年にあたります。

まず 1 件目は、幸恵さんの生涯をモデルとした映画「カムイのうた」です。

彼女の命日である 9 月 18 日に市民会館大ホールを会場に、公開前の特別試写会を開催します。

製作が完了し、先日、関係者のみの 0 号試写会も行われました。

また、国際映画祭での上映も決定しており、話題の作品をこの機会にぜひご覧いただければと思います。

2 件目は、昨年引き続き、知里幸恵さんの生涯を演じた一人芝居「神々の謡」を市内小学校、観光交流センターヌプルで開催します。日程は、9 月 27 日（水）に幌別西小学校、28 日（木）に幌別小学校、29 日（金）にヌプルで上演いたします。

映画「カムイのうた」、一人芝居「神々の謡」とともに観覧の申し込みを受付しております。

委員の皆さまのご観覧だけでなく、お知り合いへもぜひお声がけいただき、幸恵さん生誕の地である登別市において、節目の年を記憶ある年にして、アイヌ民族、アイヌ文化への理解・関心を高めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上になります。

安宅教育長：事務局から、それぞれ説明がありました。全体を通してご質問等ございますでしょうか。

（「ありません」の声あり。）

安宅教育長：事務局から追加で情報提供等はございませんか。

（「ありません」の声あり。）

安宅教育長：すべての案件が終了しました。委員の皆様より、情報提供等ございませんか。

(「ありません」の声あり。)

安宅教育長：最後に、9月の定例教育委員会の開催日について予定したいと思います。
次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

近間総務グループ総括主幹：定例の教育委員会につきましては、毎月最終木曜日に開催しているところがございますので、9月につきましては、9月28日(木)、時間は本日同様16時30分からと考えております。

安宅教育長：それでは、事務局より提案のありました9月28日(木)、16時30分ということで皆様のご都合はよろしいでしょうか。

(「大丈夫です」との声あり)

安宅教育長：それでは決定とさせていただきます。詳細につきましては後日事務局よりお知らせ願います。

以上で本日の会議を閉会いたします。

ありがとうございました。